

2020年度 明治大学

【商学部】

解答時間 60分

配点 100点

り





国語問題

はじめに、これを読みなさい。

(注意事項)

1. この問題用紙は二十二ページまでである。ただし、ページ番号のない白紙はページ数に含まない。
2. 解答用紙の所定の欄に、必ず氏名を記入すること。
3. 解答用紙には受験番号が印刷されているので、受験番号が正しいかどうか受験票と照合して確認すること。
4. 解答はすべて「解答用紙」の解答欄に記入またはマークすること。解答欄以外のところには何も記入しないこと。
5. 解答は、必ず鉛筆またはシャープペンシル(いずれもHB・黒)で記入すること。
6. 訂正は消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないこと。
7. 解答用紙は、絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。
8. 文字は楷書で正確に書くこと。
9. 解答用紙は持ちかえないこと。
10. この問題用紙は必ず持ちかえること。
11. 試験時間は六十分である。

(マークの記入例)

良い例	悪い例
	  

(一) 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

太平洋の島嶼国ミクロネシア連邦のヤップ島で古くから使われている石貨は円盤状の石の真ん中に穴を空けたもので、サイズは小さいもので直径二〇センチほど、大きいものは直径四メートルにもなる。一九二〇—一九四〇年代の日本統治時代の調査では、当時ヤップ島には一万三〇〇〇個以上の石貨があったという。ヤシの並木道に巨大な石貨が並ぶ風景はヤップ島の観光資源にもなっている^{〔牛島 一〇〇二〕}。

まず石貨と私たちの貨幣との違いを確認しておこう。紙幣や硬貨と異なり、ヤップの人びとは石貨を日常的に持ち歩かないし(重くて大変だ)、交換のたびに手渡すこともない。支払いに際しては、小さな石貨であれば相手に手渡すが、大きな石貨の場合はそれ自体は動かさずに所有権だけが移転される。石貨の多くは公の場所にただ置かれている。周囲の人びとは一つひとつの石貨が誰のものか知っているため、所有者は石貨を手元にもっている必要はないのである。また石貨の価値には客観的な基準がなく、その価値は取引のたびに当事者間の交渉で決まる。つまり石貨は、価値基準や価値保存の機能を十分に果たさず、また交換媒体としても使い勝手が悪いのである。^{〔注1〕}先述の三つの機能という観点からは不完全な貨幣といえよう。ではじっさいにヤップ島での交換において石貨はどのような役割を果たしているのだろうか。

ヤップ島の石貨をとりあげたドキュメンタリー番組「NHK—BS」地球イチバン」二〇一三年一月一四日放送)のなかのひとつの印象深いエピソードから見ていこう。ある老人は毎日午後、海に釣りに出る。一人暮らしなので夕食分の一匹だけ釣れば十分である。たくさん釣れた日は余りを隣人にあげてしまい、逆に釣れなかった日は隣人からイモを分けてもらう。隣人どうしでの魚とイモの交換だが、ここには貨幣は登場しない。現在、ヤップ島では町での買い物はすべて米ドルが使われている。村人もココナッツを売るなどして日常的に米ドルを稼いでいる。だが村の生活において、食料やサービスを米ドルで売買することは基本的にはない。それらは人びとのあいだで与えあうものなのである。

こう書くと、ヤップの村は(中略)顔を見知った人どうしがあたりまえに助けあう親密な共同体に見えるかもしれない。だから

不完全な石貨でも問題ないのだと。だが、そう結論づける前にもう少し詳しくヤップ島における交換のしくみを見てみよう。

ヤップにおける交換生活の基盤にあるのは、首長制にもとづく階層構造と役割分担である。それぞれの村には首長がおり、その下に呪術師と漁労長が、さらにその下には……というように明確な階層構造と役割分担が存在している。これらの地位と役割はそれぞれの家ごとに割り当てられている【則竹 二〇〇四】。（参考文献²）こうした役割分担は家の中でも徹底している。家の土地はイモ

畑、ヤシ畑、漁場など区画分けされ、性別と年齢に応じて個々人に割り当てられ、それぞれが生産活動を分担する。なるほど分業して生産した食料を共有・交換するのかもしれないが、話はもう少し複雑である。ヤップ島では性別と階層、年齢ごとに食物の禁忌があり、たとえば年長の男性は女性の畑の作物を食べると病気になってしまうとされている。そのため、各人の生産物は家の中でも共有できないし、自由に交換もできない。B交換は、特定の相手と、特定の生産物に限ってなされるのである。これは食料のみならず漁や祭礼での労働などのやりとりでも同様である【牛島 一九八七】。（参考文献³）

このようにヤップの人びとは厳格な役割分担のなかで生活しており、交換は階層と役割に従って、半ば義務的になされる。一人暮らしの老人と隣人のイモの交換も自然な助けあいの精神などではなく、決められた相手と決められたモノをやりとりする、高度に組織化された権利義務関係にもとづいた交換だったのである。

こうした交換の権利義務関係は階層と役割に応じて定まっているだけではなく、ことあるごとに再確認され、またあらたにくりなおされるものでもある。Cここで重要な役割を果たすのが、結婚や紛争解決などの際に当事者間で石貨などの財を贈りあう「ミテミテ」という交換儀礼である。たとえば結婚の際には妻側から石貨とイモが、夫側から貝殻貨幣と魚が互いに盛大に贈られ、両者のあいだにあらたな交換関係が生成される。またミテミテの交換当事者は十分な交換財を準備するために親戚や友人、近隣の人びとなどに援助を要請するのが常である。この援助／被援助のやりとりをとおして交換当事者の二者間だけでなく、当事者と周囲の人びとのあいだでも関係が生成・再確認される。

こうして生成される相互扶助関係は重要なものであり、当事者間で記憶しておくだけではなく、公的なたちでも記憶される。そこで重要な役割を果たすのが石貨である。ミテミテは公衆の面前で盛大におこなわれる儀礼なので、人びとは一つひとつ

の石貨について、いつ、誰と誰が交換したのかを知っている。いわば石貨は人びとのあいだの権利義務関係が刻み込まれたケイ^①ヤクシヨのようなものである。だとすると、石貨が所有者の家の中にしま込まれるのではなく、日常的に人びとが目にする公の場に置かれていることの意味は明白だ。ヤップの人びとは石貨Ⅱ共同体の目に権利義務関係の履行を監視されたなかで、交換しあい、生活しているのである。

ここまで見てきたとおり、私たちもヤップ人も交換して生活していた。たしかに人間は交換する生きものなのだろう。だが両者の交換のしくみと貨幣の役割には大きな違いもあった。その違いを信用という観点からまとめなおしてみよう。

私たちが交換において信用しているのは、人ではなく貨幣である。私があなたにモノを与えるのも、あなたが私にモノをくれるのも貨幣を支払うからだ。貨幣が人と人、モノとモノのあいだに入り、その貨幣を全員が信用し断らないことで、誰とでもなんでも交換できるしくみが成り立っている。

一方、ヤップの人びとは貨幣の支払いなしにモノを与え、受けとる。人びとが信用するのは相互扶助の義務がある交換相手であり、またその関係を知っている周辺の人びと、いわば共同体である。儀礼での石貨のやりとりが関係を生成し、その関係が石貨を介して公的に記憶されることで、人びとは安心して相手に与えることができる。

^{〔注2〕}

貨幣商品起源説では、ヤップのような貨幣の媒介なしの交換を物々交換以前の

X 的な相互扶助とみていた。だが、こ

れはあまりにも西洋近代の市場経済に偏った見方である。カール・ポランニーは、私たちのような貨幣に信用をおく交換のしくみは西洋近代以降の市場経済という歴史的状況下で形づくられたもので、広い時代・地域を見わたせば、むしろ特殊なシステムだと論じている「ポランニー 二〇〇五」^{〔注3〕}。スミスは交換するのが人間の本性だと言ったが、そこで想定している交換——欲望の^{〔注4〕}

二重の一致の困難が生じ、貨幣がそれを解決するというような——は近代西洋の市場経済のなかだけのものである。石貨はヤップ島において、それとは異なるやり方で人びとのあいだの交換を可能にしていた。ポランニーはヤップ島のような貨幣と交換のあり方は「未開」ではなく、異なる環境で別様に発達したシステムだと論じ、市場経済をもっとも進化したものとする西洋中心的な思考を批判した。

〔参考文献5〕

二つの交換システムの関係については、デヴィッド・グレーバーも興味深い議論を展開している〔「グレーバー 二〇一六」〕。長い歴史的スパンで見れば、ヤップのような人に信用をおく交換システム（信用システム）と、私たちのような貨幣に信用をおくシステム（現金システム）は、どちらが遅れた／進んだというような関係ではなく、入れ替わりに交換システムの主流を担ってきたとグレーバーは論じている。現金システムが成り立つためには、貨幣となる貴金属が②ジュンタクかつ広範囲に流通する状況と、その貨幣での支払いを誰も断らないよう強制する統治権力が欠かせない。ヨーロッパではこの条件はローマ帝国時代に整った（強力な権力、奴隷による鉱山労働、傭兵への給料支払いによる広い貨幣流通）が、帝国崩壊後の中世には貨幣を用いた商業は都市だけに限られるようになり、小規模な共同体での信用システムが中心的な交換の方法になった。その後、ふたたび現金システムが主流になるのは産業革命以降のことである。

グレーバーの議論が示すのは、交換のしくみが人間に自然に備わったものではなく、時代や地域ごとに異なる道具・方法で別様につくりだされていることである。ヤップでは石貨や交換儀礼が信用システムを形づくっていた。では現代日本の現金システムはどうだろうか。日本円の紙幣に額面通りの価値を保証しているのは法律（日本銀行法）であり、紙幣や硬貨をいつでもどこでも使えるのは日本中にATMや両替機が設置されているからである。貨幣に価値があり、それが交換には欠かせないという状況は決して自然ではない。人工的につくりだされ、手をかけて維持されているのである。じつさい、貨幣を発行する国家が信用を失い、こうした維持作業が放棄されれば、貨幣はたちまち信用を失い単なる紙切れになる。たとえば二〇〇〇年代中頃のジンバブエでは諸外国との関係悪化から財政難に陥ったが、その資金不足を補うために過剰に貨幣を発行しつづけた。結果として貨幣は信用を失い、人びとは億や兆といった高額紙幣にも見向きもしなくなった〔早川 二〇一五〕。

〔参考文献6〕

こうして貨幣の価値をつくりだし、支えるのは法律や制度、機械だけではない。先述した貨幣商品起源説のような学説もその道具のひとつである。〔人間には物々交換の本性があり、その交換の困難を解消するために誕生した商品貨幣が今日の貨幣に進化した〕という筋書きは客観的事実などではなく、私たちの貨幣と交換システムをもっとも進化した合理的なものに見せるための神話にほかならないのである（中略）。

このように貨幣と交換のシステムは現在も進行形でつくりだされ、また状況に応じてつくり変えられつづけている。じっさい、グレーバーによれば現代社会は現金システムから信用システムにふたたび移行しているという。国家が貨幣を中央集権的に統御する旧来のシステムが、国境を超えたグローバルな商取引の隆盛によって難しくなっていくなかで、ネット技術を活用した多くの仮想通貨が発行されるようになったのはその兆候のひとつだろう。

(深田淳太郎「貨幣と信用」『文化人類学の思考法』所収による)

〈注1〉 先述の三つの機能——筆者は本文に先立ち、現在使用している貨幣は、中心的機能である「交換媒介」、価値を将来にもち越す「価値保存」、あらゆるモノの価値をあらわす「価値基準」という三つの機能を果たすものと述べている。

〈注2〉 貨幣商品起源説——物々交換の媒介としてそれ自体に商品価値のあるものを利用したのが、貨幣のはじまりである、という説。

〈注3〉 スミス——アダム・スミス。近代経済学の創始者とされている。

〈注4〉 欲望の二重の一致の困難——(物々交換が成立するためには、)二者がお互いの欲しいものを持っているというまれな偶然が一致しなければならぬという難しさがあること。

参考文献

- 〈1〉 牛島巖 二〇〇二「携えるカネ、据え置くカネ——ヤップ島の石貨」小馬徹編『カネと人生』
- 〈2〉 則竹賢 二〇〇四「ミクロネシア・ヤップ社会における伝統の表象と実践——ヤップデーを事例として」『アジア経済』四
五巻一号
- 〈3〉 牛島巖 一九八七『ヤップ島の社会と交換』
- 〈4〉 ポランニー、カール 二〇〇五『人間の経済Ⅰ——市場社会の虚構性』

〈5〉 グレーバー、デヴィッド 二〇一六『負債論——貨幣と暴力の五〇〇〇年』

〈6〉 早川真悠 二〇一五『ハイパー・インフレの人類学——ジンバブエ「危機」下の多元的貨幣経済』

問一 傍線部①②のカタカナを漢字に改めよ。

問二 傍線部A「ヤシの並木道に巨大な石貨が並ぶ風景」とあるが、多くの人の目に触れるところに巨大な石貨が置かれているのはなぜか。本文中の表現を用いて二十一字～二十五字(句読点も一字と数える)で記せ。

問三 傍線部B「交換は、特定の相手と、特定の生産物に限ってなされるのである」とあるが、その理由として最も適切なものを次の1～5の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

- 1 細かい食物の禁忌により、交換の自由が制限されてしまうから。
- 2 労働のやりとりにより、食料交換の仕組みが決められているから。
- 3 組織化された権力構造により交換条件が取り決められているから。
- 4 生産物交換に関する迷信があり、そこに呪術師が関わっているから。
- 5 家ごとに地位が割り当てられ、交換できるものが決まっているから。

問四 傍線部C「ここで重要な役割を果たすのが、結婚や紛争解決などの際に当事者間で石貨などの財を贈りあう『ミテミテ』という交換儀礼である」とあるが、「ミテミテ」という交換儀礼の果たしている役割の説明として最も適切なものを次の1～5の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

- 1 厳格な階層意識と役割分担により高度に組織化された関係性が、財を贈りあうことで体験できる。
- 2 交換当事者同士のみならず、周囲の人間も巻き込んだ新たな相互扶助の関係がつくられ、再確認される。
- 3 新たな人間関係の成立を当事者及び関係者に周知徹底することで、交錯した二重構造の関係が明確になる。
- 4 石貨のあらかじめ決まっていない客観的な価値基準が、儀礼によって公的に表現されることで明らかになる。
- 5 関係者が強い連帯意識で結ばれるため、権利義務関係を超えた相互扶助の感情が自然と成り立つ。

問五 本文中の空欄 X を補うのに最も適切なものを次の1～5の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

- 1 仮想
- 2 表層
- 3 遊戯
- 4 認識
- 5 原初

問六 傍線部D「人びとは億や兆といった高額紙幣にも見向きもしなくなった」とあるが、それはなぜか。最も適切なものを次の

1～5の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

1 貨幣の価値を作り出し支えているのは貨幣商品起源説のような学説だと気づき、この説に基づく考え方を人びとが疑うようになったから。

2 ジンバブエは当時、人に信用をおく交換システムを採用していたにもかかわらず、諸外国との関係が悪化し過剰に貨幣を発行しづけたから。

3 国家の経済的困窮によりインフレーションを起こさざるを得ないような状況におちいり、その結果、国家及び貨幣に対する信用が失われたから。

4 交換のしくみは時代や地域ごとに別様につくりだされているが、ジンバブエで採用されていた貨幣制度が当時の状況に合っていなかったから。

5 当時のジンバブエでは、諸外国との関係悪化による財政難から内需を拡大する必要が生じ、貨幣を過剰に発行することでそれを実現したから。

問七 傍線部E「人間には物々交換の本性があり、その交換の困難を解消するために誕生した商品貨幣が今日の貨幣に進化した」という筋書きは客観的事実などではなく、私たちの貨幣と交換システムをもつとも進化した合理的なものに見せるための神話にはかならないのである」とあるが、その説明として最も適切なものを次の1～5の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

- 1 貨幣商品起源説は客観的事実には基づかず、ヤップ島の石貨に見られるような権利義務関係を示す非合理的な学説とされている。
- 2 貨幣商品起源説における貨幣は、交換の価値をつくり出す道具の一つであり、人類の遠い記憶を独自のかたちで保存した産物にはかならない。
- 3 貨幣商品起源説のもととなる、人間が持つ「物々交換の本性」とは、あらゆる地域の神話において語られている普遍なものである。
- 4 貨幣商品起源説は西洋中心的な思考であり、今日の現金システムはヤップ島の交換のあり方と比べて優れたシステムというわけではない。
- 5 貨幣商品起源説において物々交換の困難を解消するために誕生した貨幣の存在とは、直感でしかとらえられず合理的に説明できないものである。

(二) 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

近代文明は機械を駆使し、機械を動かすのに大量のエネルギーを使う。陸の交通手段を例にとれば、馬車、汽車、自動車、電車とさまざまな輸送用機械が登場し、それらを動かすエネルギーも、畜力、石炭、石油、原子力と、新車のエネルギーを開発し続けたのが近代文明。私たちは便利な機械にとり囲まれて暮らしており、便利とは早くできること、そして便利な機械はすべてエネルギーを使うものなのである。(中略)エネルギーの大量消費は「速い」と密接に関係している。

二〇世紀を代表する機械として、世紀の前半は自動車、後半はコンピュータがあげられるだろう。これらは使うと時間が速くなるものであり、代表的な「時間加速装置」である。車のエンジンは二回転ごとに一定量のガソリンを使う。だから速く回るエンジンは回転速度に比例してガソリンを使い、車の速度とエネルギー消費量はほぼ比例してくる。コンピュータのCPU(中央演算処理装置)は、0と1の状態が交互に変わることを通して計算するが、状態が変わるごとに一定量のエネルギーを使う。だからコンピュータの演算速度と消費電力はほぼ比例する。つまりエンジンもCPUも回転して元の状態に戻るが、その一巡に一定のエネルギーを使うものとみなせ、ここは生物と同じ。現代を代表する車とコンピュータという二つの時間加速装置において、時間の速度(回転の速度)がエネルギー消費量に比例しているのだから、これらの機械を駆使している現代社会においても、時間はエネルギー消費量にほぼ比例して速くなると考えて、それほど見当はずれではないと思う。

便利な機械とは、それを動かす時にだけエネルギーを使うのではない。機械を作るのにエネルギーが必要だし、またそれらが働ける環境を整備・維持するのにもエネルギーが使われている。車なら道路網やガソリン供給網、コンピュータならインターネットや電力供給網。時間を速める社会システムを構築するために相当のエネルギーを使っているのが現代社会なのである。これらも含めておぼろげに捉え、「社会生活の時間も、その速度がエネルギー消費量にほぼ比例する」と言ってもいいのではないか。ここから先はこの考えが妥当とした上で話を進めていくことにする。

これほど速くすることに多大なエネルギーを注ぎ込んでいるのは、現代社会がビジネスに支配されているからだと思つて

いる。ビジネスとはビジネス+ネス、忙しいことである。忙しいとは一定の時計の時間の間にたくさんのお仕事をやっている状況、つまり働くペースが速いことを指す言葉だろう。動物の働くペースを代謝時間の速度としたのだが、ビジネスでは人間の働くペースが速いことから、「社会の代謝時間」の速度が速いと見ていいだろう。忙しいとは時間が速いことである。

私はビジネスを次のようなものと理解している。ビジネスにおいては、①エネルギーを注ぎ込むと企業の時間が速くなり、その結果、②同じ時計の時間内にたくさんのお金を生産できたり、たくさんのお金が集まったりする、すると③お金が儲かる(だから「時は金なり」)。

ビジネスでは「①エネルギー→②時間→③お金」という順序でものごとが進んでいく。では消費はというと、「③お金→①エネルギー→②時間」という順に事が運ぶ。お金を出してエネルギーを買い、そのエネルギーで車を動かせば早く着けるし、コンピュータを動かせば短時間に情報を手に入れることができ、結局、早くできた分、余暇という時間が生まれる。お金を出してエネルギーをかうことを通して自由になる時間を買って取っているのが消費ではないだろうか。物品をかう場合もそうで、野菜を例にとれば、小売価格のうちの1/2程度しか農家の手取りにはならない。残りは流通の経費であり、これはいつでもどこでもすぐに欲しいものが手に入るといふ時間の速さを実現するための経費である。物よりも時間を買うのにより多くを使っているのが消費の現状だろう。

ビジネスの時間が支配している今の世の中では、消費においてもビジネスにおいても、「お金・エネルギー・時間」が三つ組になつてくるくる回っている。この回転速度を上げるようにと時間を操作してきたのが近代文明なのである。

職場では当然ビジネスに従事して忙しく働き、帰宅した後も、ビジネスの提供するシステムに従って消費し、楽しんでいる。休日だって何もしないのではなく、あれこれたくさんのお仕事を楽しまつて楽しむようにと煽り立てるのが今の社会。煽り立てるのはビジネスサイドで、それに消費者が乗せられてしまっている。そのため、^B生活のすべてがビジネスの時間に支配され、忙しくなっているのが現代ではないだろうか。

近代はより速くを目指してきたのだが、その背景には「より速い＝より幸せ」という思いが皆にあったからだろう。しかしこ

まで速くなってみると、手放しでそう言えるかは考えた方がいい。

現在、私たちは大量のエネルギーを使って生活している。エネルギー消費量は、石油何バーレルなどと表されるのがふつうだが、量の多さを実感するために、私たちの体を使うエネルギー（＝食物から摂取するエネルギー）を単位として表してみよう。身体尺の発想である。すると日本人一人の消費エネルギーは、体の使用量の約三〇倍になる。

これは大変な量であり、だからこそ資源の枯渇や地球温暖化が生じているのだが、問題はそれだけではない。大量のエネルギー消費によって変わってしまった時間そのものが問題なのである。

体を使う以外にエネルギーをほとんど使っていなかった時代（たとえば縄文時代）と比べると、今は時間が三〇倍も速くなっていると考えられるのだが、体の時間は縄文時代のまま。現代人の心臓は体重から予想される通りのペースで打っており、とりわけ早いわけではない。結局、体の時間は昔と変わらず社会の時間はかりが桁違いに速くなったのが現代なのである。社会の時間と体の時間の間に、非常に大きな速度の違いが存在しており、これがさまざまな問題の原因となっていると私は思う。

桁違いに速い時間に合わせようとすれば、体が無理せざるを得ない。自分のペースと異なるペースで働くとしん拍数の上がることで知られている。これは疲れる。通勤電車には疲れた顔が並んでいる。疲れたで済めばまだしも、精神が病んだりすれば一大事。

長時間労働が問題になっているが、これも時間の速度差が生み出す問題の一つ。速いビジネスの時間に追いつくには体の時間も速くする必要があるが、体には独自のペースがあるのだから、速くするにも限度があるに違いない。桁違いに速いビジネスの時間に体は追いつけず、遅れた分を取り戻すには長く働かざるを得ない。

ア、長時間労働の規制のみでは抜本的な働き方改革にはならず、ビジネスの時間そのものをもっと遅くする必要がある。

イ そうしたら負けなのがビジネス。ビジネスを象徴するのは証券取引だろうが、証券の超高速取引では、なんと一秒間に一〇〇〇回以上もの売り買いを繰り返すそうで、それほど速くしないと国際ビジネスでは勝ち残れないらしい。

ウ こんな速い取引を、昔のようにトレーダーが指のサインで行っているのではない。コンピュータを使う。その超人的コンピュー

タの速さに合わせて仕事をしているのが今の証券マンであり投資家だろう。

長時間労働は大きなストレスになるし、またビジネスの時間（つまりは機械の時間）に合わせるために体のペースをはるかに超えた速さを維持するのも、大きなストレスとなるに違いない。

トは開いているのだから、夜もおちおち眠っておれないとなれば、これも大きなストレスになる。

D 別のストレスもある。この忙しい社会は科学技術が作り出したもの。その科学について夏目漱石は『オ』の主人公にこ

う語らせている。《人間の不安は科学の発展から来る。進んで止まる事とを知らない科学は、かつて我々に止まる事を許して呉れ

た事がない。徒歩から俚（注2）、俚から馬車、馬車から汽車、汽車から自動車、それから航空船、それから飛行機と、何処迄行とつても

休ませて呉れない。何所迄連れて行かれるか分からない。実に恐ろしい》。現代の時間は速いだけではない。技術革新により時

間の速度がどんどん速くなって止まることを知らないから、いつ追いつけなくなつて落ちこぼれるかもしれないという不

安を常にわれわれに与え続ける。また、技術により社会のあり方や仕事の仕方もがらりと変わる可能性は大いにあり、実際、將

来AIに仕事をとられるのではないかという不安の声はよく聞く。これもストレスの原因になる。君たちが現在いいなと感じて

目指している職業が、そうではなくなる可能性もある。二〇三〇年までに労働人口のほぼ半分がAIとロボットで置き換えられ

てしまうとの試算があり、君たちもこの不安と無縁ではないはずだ。

きわめて忙しいのがビジネス。忙しいとは《急がずにはいられない、落ち着かない、ひまがない、用が多い》こと（広辞苑）。

「忙」は心（立心偏）＋亡。落ち着くひまがなければこの字が示唆するように、心が亡びるのではないか。だからこそ、こんなに豊

かで便利になつたにもかかわらず、毎年二万人もの自殺者が出るのだろう（自殺者数は先進国中最多）。（中略）四人に一人が自殺

したいと思つたことがあるとのこと。それほど死にたいと思わせる社会など、まともなものとは言い難い。

アダム・スミス（一八世紀イギリスの倫理学者・経済学者、近代経済学の父と呼ばれることもある）は《幸福は、平静と享受に

ある。平静なしには享受はありえないし、完全な平静があるところでは、どんなものごとでも、それをたのしむことができな

ことは、めつたにないのである》と言っている（「道徳感情論」、享受とは《精神的にすぐれたものや物質上の利益などを、受け入

れて味わいたのしむこと」(「広辞苑」)。時間に追いたてられ、不安を抱えて生きているのが現代人の生活。これでは心が平靜であり得ないし、幸福とも感じられないだろう。

(本川達雄『生きものとは何か 世界と自分を知るための生物学』による)

〈注1〉 身体尺——身体を尺度として世界の長さを計る方法。戦前の日本では身体尺である尺貫法が用いられていた。

〈注2〉 俾——くさね人力車のこと。

問一 傍線部A「社会生活の時間も、その速度がエネルギー消費量にほぼ比例する」とあるが、その例として最も適切なものを次の1～5の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

- 1 エコをうたう家電品の一般家庭への普及が、光熱費を抑えながらも人々の暮らしをより快適なものにしている。
- 2 省エネ対策の一環としてエアコンの稼働時間を思い切って制限したところ、企業の業績が予想以上に上昇した。
- 3 電気とガソリンを併用するハイブリッド車は、スピードを出してもガソリン使用量を抑制することが可能である。
- 4 社会に普及したスマートフォンで情報をやり取りすることで、人手不足に落ちいるほど物流量が倍増した。
- 5 パソコンの使用環境さえ整えば、ネットショッピングを利用し欲しいものをいち早く入手することができる。

問一 傍線部B「生活のすべてがビジネスの時間に支配され、忙しくなっているのが現代ではないだろうか」とあるが、その説明として最も適切なものを次の1〜5の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

- 1 もはや誰もが「社会の代謝時間」の速度が速くなっていることに何の疑問も感じなくなっている。
- 2 お金を支払いさえすれば、自分の多忙なビジネスの合間に休暇を取得できるようになっている。
- 3 現代社会では仕事だけでなく、余暇の時間も多忙な消費活動を行うよう人々は駆り立てられている。
- 4 現代は「お金・エネルギー・時間」が組になって回転しており、ビジネスの時間もその一部である。
- 5 ビジネスの時間が社会の多忙化を引き起こし、それが自由な娯楽行動の欲求まで減退させている。

問二 傍線部C「大量のエネルギー消費によって変わってしまった時間そのものが問題」とあるが、それは具体的にどのような点をさしているか。最も適切なものを次の1〜5の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

- 1 「より速い」より「幸せ」という近代社会を支えていた理念の間違いに人々が失望している点。
- 2 社会速度のアップが人間疎外を生み、機械の動きだけがとどまることなくスピードアップしている点。
- 3 世界中のビジネスパーソンがコンピュータを駆使し、ストレスを抱えながら忙しく仕事をしている点。
- 4 「時間加速装置」が絶えず作動し、エネルギーや時間について考える機会が失われはじめている点。
- 5 昼夜を問わずに長時間働かざるを得なくなったため、肉体も次第にそれに順応してしまっている点。

問四

空欄

に入る語の組み合わせとして最も適切なものを次の1～5の中から一つ選び、その符号をマ

ークせよ。

- | | | | | | | | | |
|---|---|-------|---|------|---|-------|---|-----|
| 1 | ア | すなわち | イ | けれども | ウ | なるほど | エ | しかし |
| 2 | ア | すなわち | イ | ところが | ウ | だとすれば | エ | だから |
| 3 | ア | ところが | イ | けれども | ウ | もちろん | エ | つまり |
| 4 | ア | だとすれば | イ | ところが | ウ | もちろん | エ | さらに |
| 5 | ア | だとすれば | イ | もちろん | ウ | すなわち | エ | しかも |

問五

よ。

傍線部D「別のストレス」とあるが、その原因として最も適切なものを次の1～5の中から一つ選び、その符号をマークせ

- 1 AIの発達により人間が携わる職業が減り、自分が無職になってしまふことに対する不安
- 2 技術革新による時間の加速化に対する不安と、技術革新がもたらす社会のありかたに対する不安
- 3 エネルギーの大量消費が社会の速度を速め、人間の手で制御できなくなることへの不安
- 4 科学技術の革新により、幸福に生きるための条件を喪失してしまっていることに対する不安
- 5 時間に追い立てられながら、ノルマ達成のために奔走しなければならないという心理的不安

問六

空欄

に入る作品名として最も適切なものを次の1～5の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

- 1 行人
- 2 機械
- 3 友情
- 4 歯車
- 5 青年

問七 本文の主旨として最も適切なものを次の1〜5の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

- 1 エネルギ―は余暇を創出したのだから、その時間を社会のために使えるような環境にしなければならない。
- 2 社会の不安をなくすことはできないが、個人は自分の心に向き合い不安を縮小することができる。
- 3 「お金・エネルギ―」への絶対的指向を転回し、「時間」に対する理解を高めていく必要がある。
- 4 社会全体で長時間労働を規制し、ストレスなく平静な時間を過ごせる世の中にすべきである。
- 5 体のペースに合わせた社会環境を生み出した上で、人間本来の時間を取り戻すことが今後望まれる。

(三) 次の文章は「石清水物語」の一節である。兵部卿宮は、大切に育てている姫君の結婚相手について思いをめぐらせていた。以下を読んで、後の問に答えよ。

かくて、兵部卿宮にかしづき給ふ御娘、春宮に奉らんと思しまうけて、こなたかなたより言ひわたり給ふ人々あれど、聞き入れ給はず、秋の中將に思ふ心なきにしもあらねど、この折節と気色ばみ給ふ。

五月五日、五月雨常よりも晴れ間なきに、まれまれ日影待ち得て、めづらしき空の光なるに、内裏よりまかで給ふとて、渡殿の東さまをあゆみ給ふに、源中將(注1)に行き会ひて、彼も出づべきにやと見ゆれば、「さは、もろともに」とて、うち具し給へり。道すがら、乱れたる睦言ども言ひかはして、妹の君の御ことほのめかし給へば、げに並べて見んはしも、見るかひあらんをとまもられ給へど、宮仕への本意深く思したれば、言少なにて離れ給ひぬ。^A

その夕暮れは、中將のもとに文あり。

「心に似たる根は、いかなる沼にも求めかね侍りて」

などあり。中なる文は、白き薄様に小さくて、

「思ひつつ岩垣沼に袖濡れて引けるあやめのねのみ泣かるる^B

水籠りは苦しう^a」

とあり。短き菖蒲に付けたり。書きざまなどの、目馴れぬさまなるを、姫君の御方に宮おはしますほどなるに、文取り出でたれば、「彼は、いづくよりのあだ言にか。くだくだしからん際②のしるべ、な好まれそ」と宣へば、「しかしかの文」とてうち置き給へる、取りて御覽じて、「いと見どころありても書きたるかな。余りまめだちたるとのみもて騒がるなるを、^Cかかる心もありけるを」と、御心おごりもよなげなり。

広げながら、御前にうち置かれたれば、姫君は御顔うつろひて、唐撫子の綾のえならぬに、青朽ち葉の小桂着給ひて、御ぐしは色なる方に寄りて、こまやかにあてにきよらなるが、御たけに一尺ばかり余りたらんと見ゆ。^(注2)あてにこめかしう、らうたげに

そびやかなるさまし給へり。「この返しは、まる聞こえん」とて、官ぞ書き給ふ。

「沼ぬまごとには引くなるあやめ草なべての袖もしをれやはせぬ

驚おどかずも」^E

とあり。中將ちゆうしやうも書き具してあれど、みづからのならねば、すさまじかりける。

殿とのの中將ちゆうしやうも、御乳母宰相ごにゅうさいしやうの君が文の中に、

「沼ぬまごとごとに袖そでこそ濡ぬるれあやめ草あやめくさみこもりにのみ恋こひひわたるとて

今日けふさへや」^F

とあれど、騒さわがしければ、御覽ごらんせず。

〈注1〉 源中將——兵部卿官の息子。

〈注2〉 一尺ばかり——一尺は約三〇・三センチメートル。

〈注3〉 中將——源中將のこと。

〈注4〉 殿の中將——関白の息子で「春の君」とも呼ばれた。

〈注5〉 御乳母宰相の君——姫君の乳母である宰相の君。

〈注6〉 今日さへや——「今日さへや引く人もなき水隠れに生ふるあやめのねのみ泣かれむ」(源氏物語・蜩)をふまえるか。

問一 傍線部A「言少なにて離れ給ひぬ」の理由として最も適切なものを次の1～5の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

1 源中将は、秋の中将の立派さを認めており姫君とお似合いであるように感じていたものの、秋の中将の「この季節のうちには結婚したい」という性急さにいらだつたから。

2 偶然会った秋の中将が「一緒に帰ろう」となれなれしく話しかけてきて姫君との結婚を軽々しくほめかしたことが、源中将には不愉快に感じられたから。

3 秋の中将の言葉づかいが乱れていたの、有力な婿候補の一人として考えている兵部卿宮が知れば落胆するだろうと、源中将は父親の気持ちを思いやったから。

4 源中将は、長雨が続き晴れ間のない日々合間にたまたま見えた日の光が嬉しくて、仲の良い秋の中将が妹の姫君との結婚話をして上々の空であったから。

5 源中将は、兵部卿宮が姫君を春宮に入内させようとしていることを知っていたので、姫君と結婚したいと願う秋の中将の話を聞くことを避けたかったから。

問二 次の1～5の傍線部のうち、傍線部①「なる」と同じ品詞・意味のものを一つ選び、その符号をマークせよ。

1 なげきつつ空なる月をながむれば涙ぞ天の川とながるる

2 をちこちの人目まれなる山里に家居せむとはおもひきや君

3 わが方によると鳴くなるみよし野のたのむの雁をいつか忘れむ

4 思ふことなるといふなる鈴鹿山こえてうれしきさかひとぞきく

5 寝覚めねばきかぬなるらんをぎ風にふくらんものを秋の夜ごとに

問三 傍線部B「ね」は掛詞であるが、「根」と何が掛けられているのか、漢字一字で記せ。

問四 傍線部 a「水籠り」b「みごもり」の解釈として最も適切なものを次の 1～5 の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

- 1 子を持ちたい思い
- 2 出家したい思い
- 3 不可解な思い
- 4 秘めた思い
- 5 不屈の思い

問五 傍線部②「御覽じ」は、誰に対する敬意を示すのか。本文中からその人物を抜き出して記せ。

問六 傍線部 C「かかる心もありけるを」とは、秋の中將の誰に対するどのような行為についての発言か。本文に即して十二字以内で具体的に記せ。

問七 次の 1～5 の傍線部のうち、傍線部 D「うつろひ」と同様の意味で用いられているものはどれか。最も適切なものを一つ選び、その符号をマークせよ。

- 1 宰相は、この人にうつろひては慰みにし心なれど、なほあさまじう心強くて止みたまひにしと思ひ出づるに
- 2 もののいみじく心やましかるべきまみ、いと赤くうつろひたるが、つねよりも、あなきよげと見ゆるは
- 3 さるべく頼もしかるべきよすが求めて、かきうつろひ、名残なく忘れにたるを、思ひなげき
- 4 もとはやむごとなき筋なれど、世に経るたづき少なく、時世にうつろひておほえ衰へぬれば
- 5 変らせたまふ御ありさまならば、かかる浅茅が原をうつろひたまはでははべりなんや

問八 傍線部E「驚かずも」の解釈として最も適切なものを次の1〜5の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

1 私を思う心が足りなかったために短いあやめ草しか見つけられなかったとしても、浮気者というあなたの評判を知っていたので驚かない。

2 岩に囲まれた沼で袖を濡らしてあやめ草を引いた努力は認めるが、あやめ草の短い根はあなたの誠意のなさのあらわれなので驚かない。

3 私と結婚したいならばそれに見合う労力を払うのは当たり前なので、わざわざ岩垣沼であやめ草を引いたと言っても驚かない。

4 あなたがお付き合いをしている人の数だけあやめ草を引いて袖が濡れたのだから、袖が濡れても自業自得なので驚かない。

5 五月五日は袖を濡らして水辺のあやめ草を引くそうだから、あなたが袖を濡らしてあやめ草を引いたと聞いても特に驚かない。

問九 本文の内容に合致しないものを次の1〜5の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

1 あちらこちらから姫君に求婚する人々は多かったが、兵部卿宮はいずれも承諾しなかった。

2 兵部卿宮が秋の中将への返事を勝手に書いてしまったので、秋の中将を憎からず思う姫君は落胆した。

3 姫君の髪の毛は、身の丈よりも長くて美しく、雰囲気は高貴であどけなく、すらりとした風貌であった。

4 秋の中将は、姫君から直筆の手紙を受け取ることができなかつたため、とても残念に思った。

5 秋の中将は源中将对して、殿の中将は宰相の君に対して、姫君に取り次いでもらうべく文を贈った。

問十 秋の中将は周囲の人々にどのような性格と想われているか。本文中から八字で抜き出して記せ。

